

性「男性」のカテゴリーに合わせたいか
ないといけません。社会が求めるジェンダー
は抑圧的な規範となるわけです。そうする
と、ますます「自分らしく」いられないスト
レスは高まることも、「女性」「男性」を演
じたら演じたで「やっぱり女性ね」「さすが
男性」などと言われて、カテゴリーや序列
はさらに強化されてしまいます。私たち
は、社会を構成して(つくって)生きていま
すが、社会が私たちを構成して(つくって)
もいるのです。

同様に、メディアは構成されたものであ
り、構成されたメディアによって私たちオー
ディエンスの意識や行動の規範は構成され
ているということ、さらに、メディアにおけ
るジェンダーは構成されたものでありその
メディアによって私たちのジェンダーは構成
されているということに、気づくこと、
「が、
まずもって第一のステップです。気づき」は
必ず、批判的に考える「こと」につながりま
す。そしてそれは「行動する」ことにもつな
がります。ここまでくれば、「市民がメディ
アを社会的文脈でクリティカルに分析し、
評価し、メディアにアクセスし、多様な形態
でコミュニケーションを創り出す力、およ
びそのような力の獲得をめざす取り組み」
(鈴木みどり・NPO法人FCT市民のメ
ディアフォーラム)という、メディアリテラ
シーの定義がおわかりいただけるでしょう。

パステル おすすめ本

エッセナおたの図書コーナーで貸し出しできます。



メディアリテラシーとジェンダー 構成された情報とつくられる性のイメージ

諸橋泰樹著

現代書館 2,200円(税抜)

テレビ、新聞、雑誌といったメディアにおいて、どのように情報は作られ届けられているのかという仕組みについて、普段あまり意識することはありません。しかしこの情報にも製作者の意図というものを含まれ、同じ情報でも作り手、そして受け手によって感じ方が変わるということを読み解くことができます。社会的に認識される性＝ジェンダーは、製作者の手によってメディアの中でどのように位置づけられ、形作られていくのかを、さまざまな例を交えて詳細に説明されています。私たちがメディアと接する際、その情報が何を目的として作られたものか、製作者の意図はどこにあるのか、そしてどのような情報を選び取ったら良いのかを見極める力を与えてくれます。

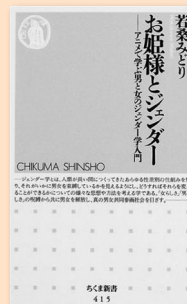


お姫様とジェンダー — アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門

若菜みどり著

ちくま新書 680円(税抜)

副題にアニメとはありますが、題材としているのは「白雪姫」「シンデレラ」「眠り姫」といった誰もが知る童話です。著者が大学で行ったジェンダー学の講義において、これらのアニメを観た学生がどのような感想を持ったのかがまとめられています。「プリンセス・ストーリー」がどれだけ子どもたちに影響を与えているのか、そしてジェンダーを学ぶことで何が変わるのかを生々の声として感じることができます。大量に生産され、消費されている物語だからこそ、その影響力も絶大であり、幼いうちから無意識に影響を与えていることを実感させられます。王子様を待つ「プリンセス」という画一的な価値観から自由になり、自身の力で人生を切り開いていくことを男女共に必要であると考えさせられます。



ピンクがすきってきめないで

ナタリー・オンス文 イリヤ・グリーン絵 ときありえ訳

講談社 1,600円(税抜)

「わたしは 黒がすき。」という一文で始まるこの絵本。「女の子らしく」「男の子らしく」と何気なく言うってしまうような場面に対して、主人公の少女が疑問を投げかけていきます。大人が思い込んでいる「らしさ」という言動の数々は、個人を見ていないのではと気づかせられます。他人に決められた「らしさ」ではなく、「自分らしさ」を大切にしていけることを教えてくれる一冊です。



日本語ジェンダー辞典

佐々木瑞枝著

東京堂出版 3,800円(税抜)

普段何気なく使用している言葉。知らず知らず、女性に対してのみ使う言葉、男性に対してのみ使う言葉、と定義されている言葉があります。なぜそのように使われるようになったのか、またメディアにおいてどのような使われ方をしているのかを例文を交えて紹介しています。例えば「才色兼備」とは、優れた知性と容姿の美しさを兼ね備えていることであり、もっぱら女性に対してのみ使われる表現です。これは、男性には「才」は必要だが「色」は不要という前提があり、また女性に「才」あることは稀であるという通念のもとに存在していると説明されています。言葉がジェンダーに縛られている、もしくは言葉によってジェンダーが定義づけられている、ということに気づき、認識するきっかけとなるでしょう。

